

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第5号(9月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に注意》

- 【水稲】 斑点米カメムシ類
- 【果樹】 果樹カメムシ類
- 【野菜・花き類】 シロイチモジヨトウ
- 【野菜・花き類】 オオタバコガ

《9月の予報概要》

A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い	
水稲			いもち病			
			紋枯病			
			ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)			
			トビイロウンカ			
			斑点米カメムシ類			
			ヒメトビウンカ			

B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう	べと病				
	褐斑病				
	晩腐病				
			チャノキイロ アザミウマ		
			フタテン ヒメヨコバイ		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病		
				ミカンハダニ	
			ミカンサビダニ		
果樹類全般				果樹カメムシ類	

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い	
なす			褐紋病			
				うどんこ病		
			アザミウマ類			
きゅうり			べと病			
			うどんこ病			
			褐斑病			
			ウリノメイガ			
			ミナミキイロアザミウマ			
			黄化えそ病（発生に注意）			
			コナジラミ類			
			退緑黄化病（発生に注意）			

D 花き（きく）

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き （きく）				黒斑病・褐斑病	
			白さび病		
			アザミウマ類		

E 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・ 花き類				シロイチモジ ヨトウ	
			ハスモンヨトウ		
			コナガ		
				オオタバコガ	
			アブラムシ類		

《(参考)9月の気象予報》

気温	低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
降水量	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)

(大阪管区气象台8月25日発表)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	並（一部地域でやや多い）	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であったが、北部地域、泉州地域の一部では平年よりやや多かった。 ・ 9月の降水量は平年並～多く、日照量は少ない～平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に上位3葉に葉いもち病斑があると穂いもちに移行しやすいので、降雨が続く場合はブラシフロアブル等を散布する。
紋枯病	並（一部地域でやや多い）	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であったが、北部地域では平年よりやや多かった。 ・ 9月の降水量は平年並～多く、気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温（28～32℃）、多湿時に多発する。 ・ キヌヒカリ、きぬむすめは抵抗性が弱いので注意する。
ジャンボタニシ（スクミリングガイ）	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年の発生を抑制するために水田や水路の成貝を拾い取るとともに、卵塊を水中に落とす。
トビイロウンカ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、ほ場での発生は平年よりやや少なかった。 ・ 8月の予察灯への誘殺虫数は、南河内地域で平年よりやや多かった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲の株元（水際）に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認する。 ・ トビイロウンカの多発時には8月上旬～9月中旬に1～2回本田防除が必要である。薬剤散布は株元まで十分に薬剤が行き渡るように行う。
斑点米カメムシ	並（一部地域でやや多い）	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7～8月の予察灯への誘殺虫数は南河内地域で平年より多く、他は平年並であった。特に小型種のアカヒゲホソミドリカスミカメ（別名：イネホソミドリカスミカメ）が多かった。 ・ 7～8月のほ場畦畔すくい取り調査でも、南河内地域では他地域と比較してアカヒゲホソミドリカスミカメの割合が特に多かった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。斑点米カメムシ類の増殖に好適な条件となるため、今後の発生に注意する。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年、本府ではアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ等の発生が多い。 ・ 出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、なるべく実施しない。 ・ 穂揃期（出穂後2～3日頃）に薬剤散布を行う。発生が多い場合は、乳熟初期（出穂後10日頃）にも散布する。

ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、一部地域を除き発生は平年より少なかった。 ・ 8月の予察灯への誘殺虫数は、南河内地域で平年より多かった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒメトビウンカはトビイロウンカやセジロウンカと異なり、イネ以外の植物でも生息でき、ほ場周辺で4齢幼虫が越冬する。 ・ ヒメトビウンカが増殖しないように水稲収穫後、水田を耕起し、ひこばえを絶やすとともに、畦畔や休耕田等の寄生植物となるイネ科雑草を枯死させる。
-------------------	---	--

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	少ない～ やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・ 9月の降水量は平年並～多く、気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気温20～22℃位のやや低温で雨が多いと発生しやすい。 ・ 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 ・ QoI 剤、CAA 殺菌剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
褐斑病	少ない～ やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・ 9月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多発すると、落葉を早めるので注意する。 ・ 枯枝や落葉、被害葉は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・ QoI剤、SDHI殺菌剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
晩腐病	少ない～ やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・ 9月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被害果房や巻きつるは取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・ 施設内への雨滴の侵入を防ぐ。 ・ QoI剤、SDHI殺菌剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
チャノキイロアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査での発生は平年並であった。また、被害果の発生も平年並であった。 ・ 8月の黄色粘着トラップ調査における誘殺虫数は、少なかった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

フタテンヒメヨコバイ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生に注意し、被害の初期に防除する。
------------	---	---

2 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・ フラスの発生を見逃さないようには場をよく見回る。 ・ フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 9月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6～10月に降雨が多いと発生が多い。 ・ 枯枝をせん定し、ほ場外に持ち出し処分する。 ・ QoI剤は、1作1回程度の使用にとどめる。 ・ 収穫前日数の長い薬剤については、防除時期に特に注意する。
ミカンハダニ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は一部地域で平年よりやや多かった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ 薬剤散布を行う際には、葉裏にも薬液がかかるように散布する。
ミカンサビダニ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年、9月になってから多発する場合がある。7月に薬剤散布を行っても被害が発生するほ場では9月上～中旬に再度散布を行う。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

4 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや多い～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は中旬までは

		<p>平年より多かったが、下旬には平年並となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場により飛来量は大きく異なる可能性があるため、ほ場内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤散布を行う。 ・ 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
--	--	--

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
褐紋病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・ 9月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉や茎に褐色の病斑ができる。果実では褐色で円形の斑点ができ、進展すると腐敗する。さらに病状が進むと柄子殻という小さな黒点を形成する。 ・ 特に露地の水なすで発生しやすい。 ・ 盛夏過ぎから被害が増える傾向にある。 ・ 病原菌は被害植物とともに土壌中に残り、次作の伝染源となる。 ・ 発病を確認したら柄子殻(小黒点)が作られる前に直ちに発病部位を取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
うどんこ病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・ 9月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない～平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80%で日照不足が続くと発生する。 ・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場周辺の除草を行う。 ・ 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ 葉の被害に注意し、少発生時の薬剤散布を徹底する。

2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気温 20～24℃で発生が多い。 ・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。
うどんこ病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 9月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない～平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハウス栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。 ・ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。 ・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。
褐斑病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 9月の降水量は平年並～多く、気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温、多湿のハウス栽培で発生が多い。 ・ 初期防除が重要である。 ・ QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。
ウリノメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
ミナミキイロアザミウマ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。 ・ ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病等のウイルスを媒介するので防除を徹底する。 ・ ハウスの開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
黄化えそ病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス (MYSV) によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等に感染する。 ・ MYSV は、主にミナミキイロアザミウマによって媒介される。 ・ MYSV に感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。 ・ 生育初期の感染による被害が大きい。 ・ 発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

コナジラミ類	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。 ・ ハウスの開口部を0.4mm目合いの防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
退緑黄化病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか等に感染する。 ・ CCYVは、主にタバココナジラミによって媒介される。 ・ CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。 ・ 発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

D 花き（きく）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・ 9月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被害葉は早めに取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。 ・ 降雨の多い場合に発生が多いので、発生前から予防的に薬剤防除を行う。 ・ QoI剤は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
白さび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 9月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。 ・ 被害葉は早めに取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。 ・ 施設では換気を良好にし、湿度を下げる。 ・ 薬剤による防除では、予防的な防除が重要である。 ・ 薬剤散布は葉の裏を中心に行う。 ・ 耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 花卉への被害を防ぐため、蕾から着色した花卉が見える前後の防除を徹底する。 ・ 品種により被害の現れ方に差がある。 ・ 施設栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
--	--	---

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は一部地域で平年より多かった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。葉の内部へ潜り込む前に防除を行う。 ・ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤は連用を避ける。
ハスモンヨトウ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。 ・ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
オオタバコガ	やや多い～ 多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は多くの地域で平年より多かった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多犯性で、多くの作物を加害する。 ・ 早期発見に努め、若齢幼虫時に防除する。 ・ 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。 ・ 摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。

アブラムシ類	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 ・ 9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
--------	------------	--

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>